

新しい学習評価についての研修会の参考資料として、 文部科学省等からの資料を読み解くための入口として、 児童生徒の資質能力を生かす指導のヒントとして・・・ 御活用ください！

「評価規準の作成のための参考資料」「評価方法等の工夫改善のための参考資料」を受けて

新しい学習評価についてのガイダンス（小学校）

■ 本資料の構成

参考資料の活用について	2~3
総説	4~5
国語	6~7
社会	8~9
算数	10~11
理科	12~13
生活	14~15
音楽	16~17
図画工作	18~19
家庭	20~21
体育	22~23
外国語活動	24~25
総合的な学習の時間	26~27
特別活動	28~29

1 評価の観点とその趣旨 (平成22年度5月文部科学省通知)

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心・意欲、国語を尊重しようとする。	相手や目的、場面に応じて、話したり聞いたりし合う態度を明確にしている。	相手や目的、場面に応じて、文章を書き自分の考えを明確にしている。	目的に応じて、内容をとらえながら本や文章を読み、自分の考えを明確にしている。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特質や作り、文字の使い方がについて理解し、使いかたをよきととらえ、文字を正しく書いている。

○ 評価の観点はこれまでと変わっていません。

2 「評価規準の作成のための参考資料」のポイント

(1) 年間指導計画を見通して当該単元の指導目標や評価規準を設定する
国語科では、一つの指導事項を年間で複数回繰り返して取り上げて指導し、能力の定着を図ることが基本です。図のような「年間の単元評価重点一覧表」等を活用すると、次のような利点があります。
○ 学習の系統が一目で分かる。
○ 指導の重点が分かる。
○ 監督事項の統括や、学習の見直しを立てるために役立つ。

全体に目をやる、どこで何を指導したか、これからは進んでいくかが一目で分かり、指導・評価の発端としや振り返りやすい。単元計画を考える際には、必ず年間計画（一覧表）を確認するようにしましょう。

縦の列を見ると、その指導事項をどこで繰り返して指導・評価するかが分かります。横で、重点的に指導するところが分かります。

「評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校)」活用

(2) 学習指導要領の指導事項をもとに、身に付けさせたい力を明確にして評価規準を年間指導計画や発達段階を踏まえ、単元のねらいを適切に設定します。ただし、「欲・態度」が言語についての知識・理解・技能は必ず設定しましょう。

国語の領域で指導する。授業や評価が中心になることがよくあります。欲・態度も重要です。一つの単元の指導目標の読み、授業に適切に付けさせるようにしましょう。

必ず設定 1~2領域の設定が基本

国語への関心・意欲・態度 (話す・聞く能力) (書く能力) (読む能力) (言語についての知識・理解・技能)

国語の領域で指導する。授業や評価が中心になることがよくあります。欲・態度も重要です。一つの単元の指導目標の読み、授業に適切に付けさせるようにしましょう。

■ 各教科等、2ページにわたってポイントを示しています。

■ 1ページ目には、今回の通知に示された「評価の観点とその趣旨」、指導計画をたてる際に有効な『「評価規準の作成のための参考資料」のポイント』をわかりやすく示しています。

3 「評価方法等の工夫改善のための参考資料」のポイント

(1) 「生活を創意工夫する能力」の評価方法の工夫
作品など「結果」での創生工夫だけでなく、「過程」が自分なりに工夫した過程」を含めて評価しましょう。具体的には、
① 工夫した過程が表れる評価規準を設定しましょう。
② 計画書や実習記録表などの記入欄工夫するなど、資質を中心とした表現活動を通して、児童が考えた過程を把握できるようにしましょう。

■ 工夫した過程を評価した例【オリジナル野菜のための調理計画・実習記録表】

「オリジナル野菜」の栽培から「オリジナル野菜」の調理までを評価する。オリジナル野菜の栽培から調理までを評価する。オリジナル野菜の栽培から調理までを評価する。

＜調理計画書の評価規準＞
オリジナル野菜のための栽培計画や調理計画を評価し、自分なりに工夫している点を評価します。

＜調理実習簿の評価規準＞
オリジナル野菜のための調理や目的に合わせた切り方、ため方、盛り付け、調理に配慮した片付けについて考えたり、自分なりに工夫している。

「自分なりに」とは児童がそれぞれの状況に応じて、学んだ知識や技能を生かして工夫しているか評価します。

(2) 「生活の技能」の評価方法の工夫
「採集に先かき評価」、「評価結果として記録する評価」など評価の目的を明確にし、繰り返し見取ることで、技能の定着を図る。

■ 目的を明確にして評価した例【「創意に生かすためのあそびを作ろう」における「生活の技能」の評価例】

①材料の切り方 (観察は済ませた)	②材料のたため方 (観察は済ませた)	③材料の盛り付け (観察は済ませた)	④評価規準
三色彩紙の切り方 (4-6割)	オリジナル野菜のたため方 (4-6割)	三色彩紙の盛り付け (4-6割)	評価規準
評価規準 A 気取ったこと B 正しい切り方で切っている	評価規準 A 切り方を基本をまもって、創意を生かしている B 切り方を基本をまもって、創意を生かしている	評価規準 A 創意を生かしている B 創意を生かしている	評価規準 A 創意を生かしている B 創意を生かしている

※ 生活の技能は、学校の授業で行ったことを評価することを原則としています。

■ 2ページ目には、実際に評価をしていく際に有効な『「評価方法等の工夫改善のための参考資料」のポイント』を示しています。

■ 各項目はいずれも、国立教育政策研究所発行「評価規準の作成のための参考資料」「評価方法等の工夫改善のための参考資料」に基づいています。

平成24、25年度に各教育事務所主管で行われる「新しい学習評価についての研修会」においては、この資料を用いて研修を行うことになっています。

本資料は、web上で入手できます。下記ホームページからダウンロードしてください。
 (1) 福岡県庁トップページ > 県の発行資料 > 義務教育課の行政資料 (all年度)
 (2) 義務教育課ホームページ (<http://gimu.fku.ed.jp>)
 ※ (1)、(2)とも、内容は同じです。